

メルボルン大学の日本語・日本研究（1999）

メルボルン大学

隈本ヒーリー・順子

（1）機関概要

メルボルン大学は1853年にヴィクトリア州議会で大学設立法案が通過し創設されたが、正式開校となったのは1855年である。1960年代に文学部（Faculty of Arts）の中に東洋研究学科が設けられ中国語講座がまず開かれ、1965年に日本語講座が開講された。同じ頃にヴィクトリア州に二つの新設大学ができ、その一つのモナッシュ大学でも日本研究学科がつけられた。メルボルンとモナッシュ両大学間の協定によりメルボルンが中国語、モナッシュが日本語を優先言語として発展させることが、取り決められた。この方針がくずれたのは、80年代に入り、日本語学習者の数が増加し、日豪関係、特に二国間の経済関係が重視されるようになったからである。

東洋研究学科から東アジア研究学科に改名され、更に80年代にはアラビア語、インドネシア語、人類学を吸収し、アジア言語・人類学科となった。その後、紆余曲折の結果、元のように日本語と中国語だけになり、1993年から Department of Japanese and Chinese という学科になった。しかし、1998年2月1日付けで、この学科は再度、インドネシア語とアラビア語・イスラム研究の2部門を吸収し、新しく Melbourne Institute of Asian Languages and Societies (以下 MIALS) が設立された。この新しい組織は、大学中央首脳部の肝いりで誕生し、「アジア」関係の言語・文化研究を強化するという大学の方針のあらわれである。文学部の中に位置しながら、大学全組織から「アジア」関係者を諮問委員会に招き入れ、大局的な観点からこの分野を発展させていくという大学の意欲が伺える。また、この新しい組織の長(Director)として、1998年2月から10月まで副学長が兼任したのも、大学首脳部の意気込みを示している。1998年10月半ばにはオーストラリア国立大学の太平洋・アジア研究所の所長が、MIALS の長として選任され、赴任した。

MIALS の中で日本語・日本研究は Japanese Programme と呼ばれ、本年度はスタッフは、全部で常勤が11名と非常勤が5名で構成されている。昨年度より1名少ないのは、欠員ができその補充が昨年、今年と2年間埋まらなかったからである。そのうち日本研究にたずさわる教師は常勤2名と非常勤1名からなり、常勤スタッフの専門分野は日本建築・美術と人類学である。日本語教師の研究分野は主に言語学・応用言語学である。今年日本語学習者の数は約450名、日本文化関係のコースを取っている学生は50名から70名（学期によって数変動する。）いるが、日本語を取っている（或いは取った）学生が日本文化のコースも履修している場合がほとんどである。

日本語コースは日本語 1A/1B から始まり、日本語 6A/6B までの6レベルがあり、初心者と既習者がそれぞれの能力にあったコースから始められることを意図して、6段階のコースができ、現在に至っている。

(2) 統一単位制度の導入

メルボルン大学では、1999年から全大学のコースに統一単位制が導入され、日本語コースもこの単位制の下に再編成された。1998年までは一年生のコースは18.75ポイント、2,3年生、オナーズの日本語コースは16.7ポイントであったが、それが12.5ポイントのコースに減点されることとなった。新制の12.5ポイントのコースは週4時間しかなく、レベル1から4までは週6時間の授業時間数があり、どのように調整するかが大きな問題であった。様々な過程を経て、最終的にはレベル1から4のコースを解体して、それぞれ2コースずつの編成となった。以下、1999年以前のコースと以降のそのコース変更を表にして掲げる。

1999年以前	1999年以降の日本語コース
Japanese 1A	=Japanese 1A (Core) 12.5 pts +Japanese 1A (IT) 6.25 pts
Japanese 1B	=Japanese 1B (Core) 12.5 pts +Japanese 1B (IT) 6.25pts
Japanese 2A	=Japanese 2A (Core) 12.5 pts +Japanese 2A (IT) 6.25 pts.
Japanese 2B	=Japanese 2B (Core) 12.5 pts +Japanese 2B (IT) 6.25 pts.
Japanese 3A	=Japanese 3A (Core) 12.5 pts +Japanese 3A (IT) 6.25 pts.
Japanese 3B	=Japanese 3B (Core) 12.5 pts +Japanese 3B (IT) 6.25 pts.
Japanese 4A	=Japanese 4A (Core) 12.5 pts
Japanese 4B	=Japanese 4B (Core) +Japanese 4B: Language and Culture 12.5 pts

日本語5と6はポイント数が16.7から12.5に下がり、カリキュラムからCALL (Computer-Assisted language Learning)を除いた以外、大きな変更はなかった。

これ以外に今年からの新しいコースとして、上級日本語マルチメディアA (Advanced Japanese: Multimedia A)と上級日本語マルチメディアB (Advanced Japanese: Multimedia B)の二つコースができた。これは日本語5と6の中からCALLの部分を取り除いたものに、さらに内容を付加して新しいコースに模様替えして今年から登場した。例えば、筆者が教えた昨年度のウェブ・プロジェクトは上級日本語マルチメディアBの中に取り込まれた。

(3) メイン・ストリームの日本語以外のコース

日本語のメイン・ストリームはレベル1から6までであるが、それ以外に以下のコースがある。

- ・ 日本の大衆文化 (Japanese Popular Culture)
- ・ 現代日本社会 (Contemporary Japanese Society)
- ・ 日本社会問題 (Social Problems in Japan)
- ・ 日本研究のための方法論 (Research on Japan)

- ・ 上級翻訳プロジェクト (Advanced Translation Project)
- ・ 日本建築 (Dynamics of Japanese Architecture)
- ・ 上級日本語購読 ー 日本経済 (Advanced Reading: Japanese Economic Texts)
- ・ サテライト・テレビから見た日本 (Japan Today by Satellite Television)
- ・ 日本に関する研究プロジェクト (Independent Research Project: Japanese)
- ・ 日本研究の特別セミナー (Special Seminar in Japanese Studies)
- ・ 日本研究優等学位論文 (Japanese Honours Thesis)